

2学期始業式式辞

毎年8月15日には、本校の同窓会がむつプラザホテルを会場に開催されていますが、実は、これと別に6月、東京でも同窓会が開催されています。新型コロナウイルスの蔓延で長く中断していたのですが、今年本当に久しぶりに東京の駒込というところで東京同窓会が開催されました。50名ほどの参加者がありましたが、私もこの東京同窓会に参加させていただきました。

「都会人」の顔をした皆さんの先輩たちがぞくぞくと集まって来られるのを見て、私は非常に緊張したのですが、会の進行とともに、参加者の表情も言葉もすっかり「下北人」になり、都会の一角が大湊になったような錯覚を覚えました。この会では、現在の大湊高校の状況、在校生の活躍の状況も報告されましたが、皆さん目を輝かせて聞き入り、歓声が上がることもしばしばでした。

卒業して何十年たっても、母校の話で盛り上がる姿を目の当たりにして、私は胸が熱くなりました。故郷を遠く離れ、都会で暮らす中、心細いことや、悔しいこと、苦しいこともたくさんあったはずです。その間、この方々の胸には、ずっと「母校」が支えとしてあったことを感じました。

私は、同年代の若者が集まって生活を送る「学校」を、とても重要な場所だと考えています。仲間と笑い合った時間、悩みを分かち合った経験、努力して成し遂げた達成感。それらは後々まで心に残り、大人になってからも心の支えとなります。そして、同じ学び舎でかけがえのない時を過ごした者同士の絆は、とても強いものになります。今はあまり感じないかもしれませんが、時が経つに連れ「学校」は「母校」となり、そこでの日々は「一生の宝」になっていきます。

さあ2学期が始まります。様々な行事、体験の機会、挑戦の場がたくさんあります。皆さんが、笑顔で、前向きな気持ちで、「一生の宝」となる日々を過ごすことを心から願っています。

令和7年8月22日

校長 伊藤文一